

重点課題

学力向上の保証（一人一人の子供を主語とした学びへの転換へ）

ウェルビーイング（Well-being）

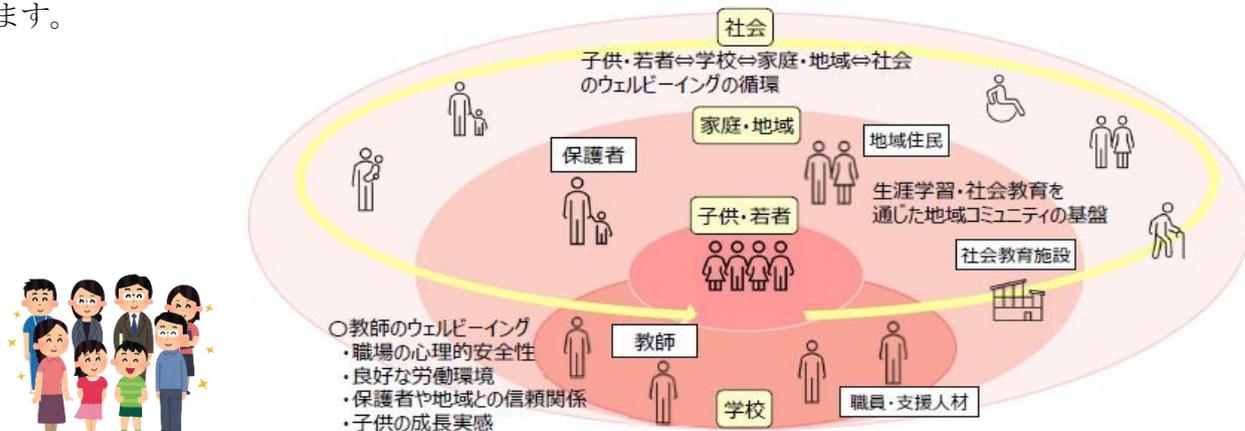
ウェルビーイングとは、「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働きと潜在的能力である」と定義されています（OECD「PISA2015年調査国際結果報告書」）。なぜウェルビーイングが求められるかという、「経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきている」ためです。

第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）では、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が2つのコンセプトとされました。あえて「日本社会に根差した」と強調した背景には、欧米的な「獲得的要素」と日本的な「協調的要素」という2つのウェルビーイングで考えるようになってきたためです。



獲得的要素は自己肯定感、自己実現のように、「自分の人生に満足している」「私は望んだものは手に入れてきた」という尺度で測られます。一方、協調的要素は利他性、協働性のように、「大切な人を幸せにしていると思う」「平凡だが安定した日々を過ごしている」といった幸福感を指します。「日本社会に根差したウェルビーイング」とは後者の協調的要素のみではなく、獲得的要素と協調的要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調 (Balance and Harmony)」に基づくウェルビーイングだということで、日本が世界に発信した捉え方です。

子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要であり、さらに子供たちのウェルビーイングが家庭や地域、社会全体に広がっていくことが求められます。



引用：内田由紀子（2023）「人口減生時代 Well-beingを踏まえた政策の重要性 - 人がつながり、幸福が感じられる地域社会の構築 -」

